

堅田東ハ木濱へ貳拾壹町、常ニ舟渡し、一西ハ小松、東ハ長命寺へ七里、一西ハ大溝、東ハ沖島へ三里半、一西ハ舟木、東ハ白石へ貳里、一西ハ沖島、東ハ長命寺へ、南ハ壹リ、北ハ半リ、一西ハ舟木、東ハ松原へ七里、一勢田川東西ハ、粗百間、一西膳所城、東矢橋貳十町、一竹生島海津、今津より三里、大崎より壹り、早崎より壹り、長濱より五里、松原より六里、津々ら崎より貳十町、

○按ズルニ、近江八景ノ事ハ、地部近江國篇ニ載ス、宜シク參照スベシ、

餘吾湖

〔運步色葉集興〕余吾湖近江

〔書言字考節用集乾〕餘吾湖江州伊香郡

〔淡海温故錄伊香郡〕余江 余古、又余湖、又余吳、共カク、余江ハ一里許四方ノ入江也、小舟モアリ、漁人、鮒、ウグヒノ類ヲ捕ル、余吳鮒トテ名産也、此鮒、十一月十二月ノ比、雪降江面一逼ニ氷ザレバ取

レズ、尤佳品也、他月ハ味惡シ、

〔柴田退治記〕天正十一年卯月廿日、佐久間玄蕃助爲大將、通余吳之海馬手、

〔西遊行囊抄四上〕諏方湖 下ノ諏方ノ驛ヲ出テ、左ノ方ニ漫々ト見ユル、富士山湖水ニ移リテ、其

景言語道斷也、○中此湖名所也、諏訪ノ海トモ、又諏訪ノ湊共ヨメリ、

〔千曲之真砂二〕諏訪湖并ころもが崎衣

信濃國 諏訪湖

鳥丸殿丙寅の紀行にも、はこねの峯より見る湖よりはひろく長く、四方かぎりくまもなく見ゆ、近江の湖には及ばざれど、なか／＼見渡し、島もなくいさぎよく湛へたるは、近江よりげにぞ覺ゆると書給へば、城の湖へつき出したるさまはいとおもしろく筆に及び難し、又衣が崎といへるは、高島の城の大手を入れて、二の門の橋をエトのはしとなんいふ、其橋のむかふへ富士の影湖水へうつる、海上の風景いわんかたなし、そのむかふなる崎を衣が崎とも、これもが御崎とも